

岡山理科大学建築学科の設立と運営



企業リポート

井 上 一 朗*

Foundation and Management of Okayama University of Science,
Department of Architecture

Key Words : Okayama University of Science, Department of Architecture

1. はじめに

2007年4月に私立岡山理科大学総合情報学部建築学科が新設され、第1回の入学生を迎えることとなった。それまで岡山県の大学には建築学科が存在せず、地元関係者からその設立を要望されていたと聞き及んでいる。筆者は、2005年頃からこの建築学科の設立に関与してきた。また、2009年3月に京都大学建築学専攻を定年退職した後、岡山理科大学建築学科に着任し、学生の教育に当たっている。この稿では、設立の経緯を紹介し、設立後の状況と今後の展望について述べる。

2. 岡山理科大学の概要

岡山理科大学は1964(昭和39)年に理学部応用数学科、化学科を設置したのが始まりであり、創立者は初代学長：加計勉氏(学校法人加計学園名誉理事長)である。当時の設立の主目的は、中学高校の理科及び数学の教員を育成することであつたらしい。現在でも岡山県下の中学高校の教員を多数輩出している。

その後、理学部の多くの学科・専攻が新設されたが、1986年、6専攻を工学部に移設し、また1997年、総合情報学部を新設して4学科を設置し、現在の3学部体制にいたっている。表1に各学部の学科構成と入学定員を示す。収容定員の総計は約5000名で

ある。その他、大学院(修士課程、博士課程)も設置されているが、多くの私学と同様、進学者は少ないのでここでは割愛する。

岡山理科大学は、学校法人加計学園に属していて、この学園には、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、岡山理科大学附属高等学校、岡山理科大学専門学校など、多くの大学、付属高校、専門学校が設置されている。

岡山理科大学の所在地はJR岡山駅のほぼ北側に位置し、国立岡山大学の裏手(北)にある半田山の山上にあって、岡山駅からはバスで20分の距離である。写真1は建築学科と生体医工学科が同居して

表1 学科別入学定員

学部	学 科	入学定員
理学部	応用数学科	85
	化学科	75
	応用物理学科	70
	基礎理学科	75
	生物化学科	85
	臨床生命科学科	85
	動物学科	40
工学部	バイオ・応用化学科	75
	機械システム工学科	85
	電気電子システム学科	70
	情報工学科	85
	知能機械工学科	60
	生体医工学科	60
総合情報学部	情報科学科	80
	生物地球システム学科	70
	社会情報学科	70
	建築学科	80



* Kazuo INOUE

1946年2月生
九州大学・工学部・建築学科(1968年)
現在、岡山理科大学 総合情報学部 建築学科 教授 工学博士 建築鋼構造
TEL : 086-256-9536
E-mail : inoue@archi.ous.ac.jp

いる27号館と建築構造実験棟(後述)を示す。ただし、構造系の教員室と研究室は2009年度末に近くの24号館に転居する予定である。次に、写真2は学内の一部の建物群を示すものである。山上で比較的狭いキャンパスに建物が密集している。また学内に坂道が多く、移動にはエレベータやエスカレータが欠かせない。

3. 建築学科の設立経緯

筆者がまだ京大在職中の2005年に、岡山理科大学に建築系の学科を総合情報学部を設置する予定があるので、京都大学建築学専攻に協力するよう要請があった。工学部ではなく総合情報学部を設置する理由は、総合情報学部の1学科を廃して建築系学科を設立するからであった。いわゆるスクラップ・アンド・ビルドである。当初、学科名称として「情報」「環境」などのキーワードが候補に挙がっていたが、学内外へのわかりやすさを重視して「建築学科」というオーソドックスな名称に落ち着いた。

学科の設立に当たっては、文科省や学内事務局相手に膨大な作業が必要となる。当時京大講師であった山崎雅弘先生が准教授として岡山理科大に2006年4月に赴任され、京大側の協力教員と連絡を取りつつ建築学科の立ち上げに尽力され、2007年4月に最初の入学生を受け入れる運びとなった。

1学年の定員は80名で、教員は14名(内1名は

共通科目(物理・数学)教育教員)で構成するという条件であり、計画系、構造系、設備系の教員構成をそれぞれ6, 4, 3名として人選が進められた。

ところで、全国の国公立大学で建築学科という旧来からの名称が影を潜めるという状況がしばらく続いている。これは、十数年前からの文科省の意向、すなわち小講座→大講座、小学科→大学科(例えば建築・土木が合併)に沿う動きであった。この間、「環境」「人間」「社会開発」「システム」「地球」などのキーワードが学科名に冠せられ、今も世間からはわかりにくいと悪評である。しかしここにたって、神戸大学や熊本大学など、元に戻る動きも出始めている。

カリキュラムに関しても、1級建築士の受験資格の条件を考慮しつつ、建築学科としてオーソドックスな構成を目指した。また、京都大学建築学専攻に



写真1 27号館と構造実験棟(左側の建物)



写真2 キャンパス内の一風景

おける4回の就職担当の経験から判断して、岡山理科大学の卒業生に設計系(計画、構造、設備)の求人がほとんどあり得ないことは自明であった。したがって、入学してきた学生諸君には、建築の世界は多用な業種で成り立っていることを伝え、設計にこだわらずに進路を検討できるような指導を必要とする。特に構造系に関しては、4名の教員の内2名を実務経験者とし、建築工学概論を担当していただいて入学直後の1年生に対する必修科目としたのは上記の理由による。表2に専門科目のカリキュラムを示す。太字は必修科目を表している。

設備としては、製図室は当然であるが、環境実験室、構造実験棟が建設された。構造実験室に関しては、筆者ら年寄りが退職した後、優秀な若い人材に岡山理科大学建築学科で活躍していただくための研究環境を整えるという目的で、相当立派な施設を整備した(写真3)。これは「構造材料実験」の講義(実習)にも必要な設備でもある。高さ8mの耐力壁、

耐力床の他に2000kN万能試験機や5tの天井走行クレーンを設置している。すでにいくつかの委託研究を受け入れていて、地元の関係者などに活用されている(写真4～6)。これらの写真に見られるように、実験は一般に公開で行われていて、学生を含め、多くの見学者が訪れている。



写真3 構造実験室内部(左手前は2000kN アムスラー、楕円内のは3000kN オイルジャッキ)

表2 専門科目のカリキュラム(太字は必修科目)

	1 年	2 年	3 年	4 年
計画系	設計演習Ⅰ 住宅計画	設計演習Ⅱ 日本建築史 CAD/CG 演習Ⅰ CAD/CG 演習Ⅱ ハウジング 設計演習Ⅲ	建築計画 都市計画 西洋建築史 近代建築史 建築デザイン論 設計演習Ⅳ 設計演習Ⅴ ランドスケープ・緑地計画	建築経済・経営
構造系	構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 構造力学演習Ⅰ	構造力学Ⅲ 建築生産 構造力学Ⅳ 構造力学演習Ⅱ	鋼構造Ⅰ 鋼構造Ⅱ 鉄筋コンクリート構造Ⅰ 鉄筋コンクリート構造Ⅱ 木質構造 耐震・耐風設計 建築基礎構造 建築構造材料実験	構造計画 構造設計演習
設備系	建築環境工学Ⅰ	建築環境工学Ⅱ 建築設備Ⅰ	都市・地球環境学 建築設備Ⅱ 環境・設備工学演習 建築環境・設備設計Ⅰ	建築環境・設備設計Ⅱ 建築環境計画学
共通系	建築概論 建築工学概論	建築材料 建築行政・法規 建築応用数学 測量学	技術者倫理	特別研究



写真4 実大鋼構造柱梁接合部の実験



写真5 集成材による床組構法のせん断加力実験



写真6 伝統木造の土壁の耐震性能実験

4. 設立後の運営状況

2007年に建築学科として最初の入学生を迎えることになったのであるが、定員80名に対して入学者は59名であった。その後2008年は55名、2009年は41名と漸減していて、苦戦が続いている。こ

の原因として、下記の理由が挙げられている。

a 新設で知名度が低い。

b 卒業生の就職実績がない。

c 工学部ではなく、総合情報学部 に属している。

上記a, bに対する対策としては、私学の教員の本務を地道に果たしていく以外にない。すなわち、学生を教育・トレーニングし、社会に送り出すという実績を地道に積み重ね、信頼を獲得していくことである。社会に送り出すに当たっては、就職状況に関する情報を的確に把握し、事実を学生に伝達して正しい判断をさせることが肝要である。昨今、就職活動の開始時期が異様なほどに早まり、3年生の夏頃から始まる状況となっている。これに対応して3年生の後期開始時期(10月)に研究室配属を実施し、各教員が担当学生の就職指導に責任を持つことにした。すでに多くの学生が就職活動に入っているが、一方でそのために講義に出席できないという弊害も数多く発生している。

岡山県下の過半の高校生(全6~7千名)は関西方面の大学に進学しているらしい。建築学科では、現在の3年生の岡山県出身の比率は1/3程度であるが、県外からの入学比率を上げていく必要がある。上記cへの対応策としては、受験生が本建築学科の情報を得やすくするために、2011年度に工学部へ移設されることが決まっている。

5. おわりに

今年度に入って、いくつかの私立大学の先生方に就職に関するヒアリングを行った。その結果、以前からも指摘されていることであったが、構造系研究室に配属された学生(2010年3月卒業予定)の就職率は100%に近いが、計画系の学生の就職状況は非常に悪いということであった。構造系の学生は求人が多い施工系を目指すのが、計画系の学生は、求人が少ないデザイン系の就職先に固執するというの大きな理由である。

前述のように、建築学科は2011年度から工学部に移り、大学院修士課程も新設される予定である。工学部への移設に当たっては、定員割れ状態を改善する方策を工学部長から強く求められた。今や学生定員を充足することが第1義となっていて、女子学生をターゲットに「住デザインコース」なるものが設置されることになった。売れない学生を大量に排

出ることになる可能性が高く、就職戦線では相当 学建築学科の近未来は多難である。
難儀することになろう。このままでは、岡山理科大

